

平成27年6月 経営協議会議事録

- I. 日 時 平成27年6月18日(木) 14時00分～16時17分
- II. 場 所 ステーションコンファレンス東京 サピアタワー5階
- III. 出席者 徳久学長、赤田、有馬、犬養、加賀見、香藤、河田、桜田、島田、銭谷、西堀、船橋、正宗、中谷、渡邊、松元、安村、猿渡、酒井、宮崎、金原各委員

がざー 桑古、宮坂各監事

議事に先立ち、新たに学外委員に就任された正宗エリザベス委員の紹介があった。

- IV. 前回審議議事録について
原案のとおり承認された。

V. 審議事項 (◎学外委員、○学内委員)

1. 「千葉大学のビジョン」(案)について

中谷理事から、資料に基づき説明の後、審議の結果、承認された。

2. 平成28年度概算要求(案)について

中谷理事及び猿渡理事から、資料に基づき説明の後、学長から重点支援について説明があり、どの重点支援を選択するか審議いただきたい旨の発言があり、審議の結果、千葉大学として、重点支援3を選択することとなった。

主な意見は以下のとおり。

- ◎ 千葉大学は3群を選べる状況であるのだから、学長次第。

ランキングが低い外国人研究者などの部分については、本気になればランクを上げることは可能だ。

色々なことに前向きに考えられている徳久学長のもとで、職員全員で頑張っていたきたい。

- ◎ いろいろな比較検討を行い、これだけの資料を作成していることに心意気、気迫を感じるので、ぜひ3群でやっていただきたい。

千葉大学のブランディングは、大したものだと思っている。

- ◎ 将来の心配については、徳久学長の後任に改革志向のある方を選ぶことが大事であり、今は皆さんの思いの高さで決定するべき。

東大、京大と比べると大学の規模は小さいが、それぞれの部門が他の大学とは違う強みを認識し、目指すべき方向に向かうという意味統一ができれば、一致団結して3群にチャレンジすることは選択として大いにありえる。

- ◎ 将来については、後世の方々が頑張ることであり、どう思われるかを心配する必要はない。

千葉大学には素晴らしい研究がたくさんあるので、もっとアピールするべきであり、職員、部局が力を合わせて3群として頑張っていくべき。

- ◎ 現時点において予想される3群の中では、千葉大学は中庸の位置であり、競争の中で勝ち抜くには、学長の思いだけでは難しい。しかし、各学部、職員全員が千葉大学をトップグループに持ち上げるといふ思いがあれば、成功する確率は非常に高いと思うので、3群を選ぶ考えを支持したい。
- ◎ 将来が誰にも見えていない状況で、目標を持って一致団結して、同じ方向に進むことで将来が開けていくという意識を持つことが大事であり、これを機に強い決意を持って邁進していけば、未来は必ず素晴らしいものになる。
- ◎ ここまで準備をしたので、後は具体的に一步一步進めていただきたい。連続性という意味でも、今後学長が替わられた場合でも、同じ意思を持った方を選んでいただき具現化して欲しい。
- ◎ 千葉大学が先に進むという意味で3群を選ぶべきである。具体的には、勢力を分散すると特徴がなくなるので、総花的ではなく、目玉となるものをいくつか作っていくと良い。
- ◎ 予想される3群の中では、現在の千葉大学は厳しい立ち位置ではあるが、だからこそ、きちんと戦略を立てて、3群に入っていただきたい。
これまで、千葉大学は一流になりきれないイメージだったが、研究においてはかなり良い位置にいる。あまり知られていないのが問題。また、国際的な人材の育成の部分が弱いので、強みと弱みを冷静に分析して学長のリーダーシップのもと、厳しい道ではあるが、3群を進むべき。
- ◎ 多少難しいと思われる目標を立てた方が、組織改革ができるので、そういう意味で、3群を選ぶことは良い。学長のリーダーシップで行うために、教職員の方々が戦略、目標に対して強い意識を持つことが大事であり、大学という特殊な組織での意思統一は難しいと思われるが、意識の差を埋めて一致団結して頑張っていたいただきたい。
- ◎ 徳久学長は、国際的な観点がある。厳しい選択肢が相当あると思われるが、3群に挑戦することは大事である。
アジアランキングで、高いランクではないことが心配ではあるが、グローバル化を目指す徳久学長の姿勢として挑戦していただきたい。
- ◎ 千葉大学の「つねに、より高きものを目指して」という理念に基づいて行うべきであり、改革を行うためにも厳しい環境である方が良い。

3. 第3期中期目標及び中期計画（素案）について

中谷理事から、資料に基づき説明の後、審議の結果、承認された。
主な意見は以下のとおり。

- ◎ スポーツ庁ができるが、これからの教育研究活動の中においても、スポーツビジネスや運営組織に入るような人材の育成や、それに伴うグローバル化に寄与することを考慮しても良いのではないかと。

○ スポーツ面では、健康科学という面を取り入れることは可能と思われる。また、地域連携として、スポーツ科学の先生が、ジェフ千葉や千葉ロッテマリーンズと共同で、スポーツを推進する活動をしたり、バドミントンでパラリンピックの選手として出場の可能性がある学生に対し、応援しようという動きがあるので、これを機に何らかの形で寄与していきたい。

4. 平成26事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）について
中谷理事から、資料に基づき説明の後、審議の結果、承認された。

5. 平成26年度決算について

猿渡理事から、資料に基づき説明の後、学長から、監事監査報告書について説明があり、続いて、桑古監事から補足説明があった。その後、審議の結果、承認された。

主な意見は以下のとおり。

◎ 消費税が上がり、多くの国立大学の附属病院の収益が下がっているなか、昨年と変わらない収益を上げていることについては、もっとアピールすべきではないか。

○ データの集計を毎月行うことで状況を把握し、高額医療に力を入れていること、また、ベッドの稼働率を高めるなど、附属病院の経営努力が収益を落とさなかった要因である。

6. 教職大学院一部入学者の入学料免除について

渡邊理事から、資料に基づき説明の後、審議の結果、承認された。

VI. 報告事項

1. 平成27年度科学研究費助成事業の交付内定状況について
松元理事から、資料に基づき説明があった。

2. その他

①入学式、卒業式における国旗の掲揚および国歌の斉唱について

学長から、千葉大学は従前どおり、国旗の掲揚および国歌の斉唱を今後も行っていく旨の発言があった。

以上